

高次脳機能障害学

[講義] 第3学年 前期 必修 1.5単位

【担当者名】鈴木瑞恵 mizue.suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

脳の損傷によって生じる失語症、失認、失行、記憶障害、注意障害、認知症などの様々な脳機能障害およびその出現メカニズムを理解する。

【学修目標】

脳損傷に起因する認知、行為、記憶、注意、知能の障害について定義、症状、検査、評価、病巣、発現メカニズム、経過と対応について理解する。

1. 様々な高次脳機能障害の定義、症状、検査、評価、病巣、発現メカニズムについて説明できる。
2. 様々な高次脳機能障害の検査バッテリーについて説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------------|---------------------------------|---|------|
| 1 | 高次脳機能障害とは | 大脳の営む高次脳機能について概説する。 高次脳機能障害の概念と神経心理学の原理（二重分離、機能局在、側性化、離断）について概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 2 ） 3 | 失認 | 視覚・空間認知のしくみとその障害（半盲、皮質盲、Anton症状、半側空間無視等）、視覚性対象認知障害（物体失認、相貌失認、街並失認、同時失認等）を概説する。 聴覚・認知のしくみとその障害（聴覚性消去現象、純粹語彙、環境音失認、感覚性失音、聴空間知覚障害）について概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 4 | 視空間障害 | 半側空間無視、地誌的見当識障害、パリント症候群等を概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 5 | 行為・動作の高次脳機能障害 | 1) 行為・動作全般の障害として、拙劣症、運動維持困難、運動無視について概説する。 2) 行為・動作の障害として、観念運動失行、観念失行を概説する。 3) 行為・動作の障害として空間操作障害のうち、構成障害、着衣障害をとりあげ、概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 6 | 記憶障害 | 記憶のしくみと分類（陳述記憶、手続き記憶、エピソード記憶、意味記憶、短期記憶、長期記憶、言語性記憶、視覚性記憶） 記憶の障害（前向性健忘、逆行性健忘、純粹健忘症候群、外傷性健忘、一過性全健忘他）および記憶障害のリハビリテーションを概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 7 ） 8 | 前頭葉機能障害 （遂行機能障害、注意障害） | 前頭葉に関連する高次脳機能障害（遂行機能障害、注意障害）についての病態、診断、リハビリテーションについて概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 9 | 身体意識・病態認知の障害 脳梁離断症候群 | ゲルストマン症候群や病態失認、脳梁離断症候群の病態、診断について概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 10 | 認知症 | 変性疾患、脳血管障害などに起因する認知症（アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症など）の病態、診断について概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 11 | 外傷性脳損傷の高次脳機能障害 認知コミュニケーション障害 | 外傷性脳損傷の高次脳機能障害や、認知コミュニケーション障害の病態、診断について概説する。 | 鈴木瑞恵 |
| 12 | 高次脳機能障害のリハビリテーション | 高次脳機能障害に対するリハビリテーションとチームアプローチについて概説する。 | 鈴木瑞恵 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト（選択式）20%、定期試験（筆記試験）80%

【教科書】

阿部 晶子 / 吉村 貴子 編 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害 第4版」 医学書院 2025年

【備考】

授業資料の配布はGoogle Classroomを利用する。講義の一部でGoogle Formを活用する。利用方法は講義内で説明する。

【学修の準備】

シラバスに書かれた講義進行に応じて指定した教科書を事前に読んでおくこと（80分）

講義で配布した資料と教科書で講義内容を復習し、知識を確かなものにする。こと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木 瑞恵（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、様々な高次脳機能障害の病態、リハビリテーションについて講義する。